
第13回本庁舎等整備委員会資料

令和5年（2023年）7月11日

複合化の方針

基本構想で示したビジョン-基本理念-

【基本構想】 現在地利活用の基本理念

ひらいて むすんで 知恵うむ “ふみくら”

鎌倉の拠点である市庁舎現在地は、手続や相談といった行政サービス機能を維持します。その上で、先人から受け継いだ情報や知識が万人にひらかれ、多様性の視点で人・物・事の交流をむすぶ、まちや社会にいきる“知恵”を共創する拠点となるようハード・ソフトともに充実します。情報あふれる図書館を中心に手続や相談、防災も支える、学びあい、交流しあえる拠点とします。

「ふみくら」(文庫)は資料を整理して保管する建物を意味する言葉で、その起源は古く、奈良時代にさかのぼります。鎌倉時代には、武家文化における幕府等の資料を保管したものや御家人などの屋敷にも「ふみくら」が設けられており、書写などの活動も行われた場であったそうです。

歴史・文化をつむぐ、鎌倉の知識の蓄積の場、まちとつながり、人と情報の交流が結節し、学びや共創の場として生まれかわるこの拠点は、歴史・文化を次の世代に引き継ぐ場であり、まさに「ふみくら」です。



【基本計画】 基本理念で掲げるビジョンを、利用者目線から得られる価値や魅力に具体化・言語化する

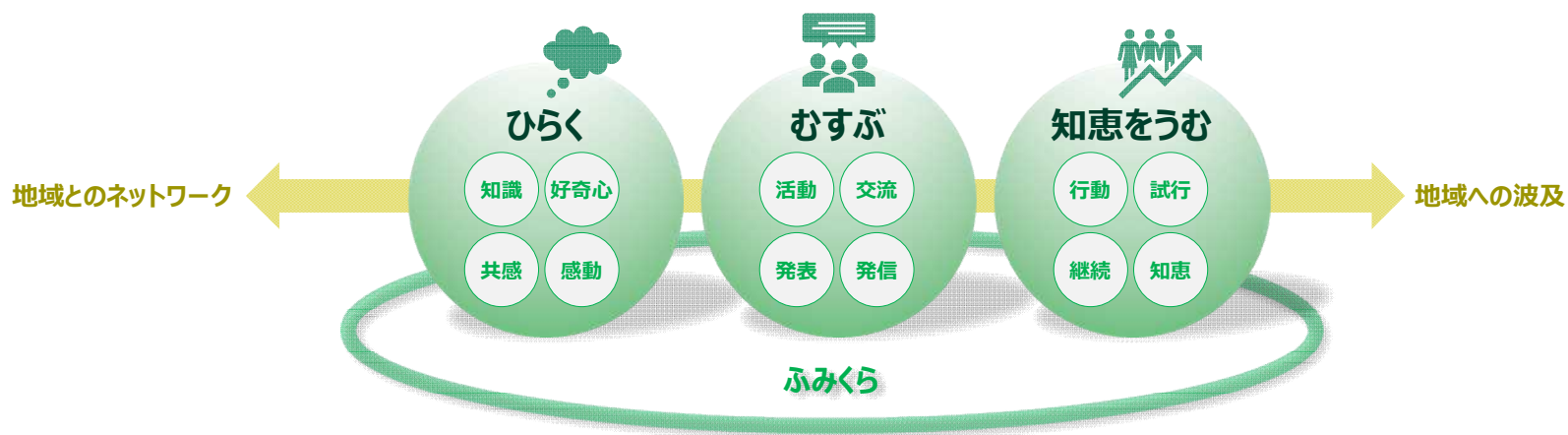
「知識を万人に“ひらく” / 「多様な交流を“むすぶ” / 「まちや社会にいきる知恵を“うむ”」

ふみくらに求められる役割

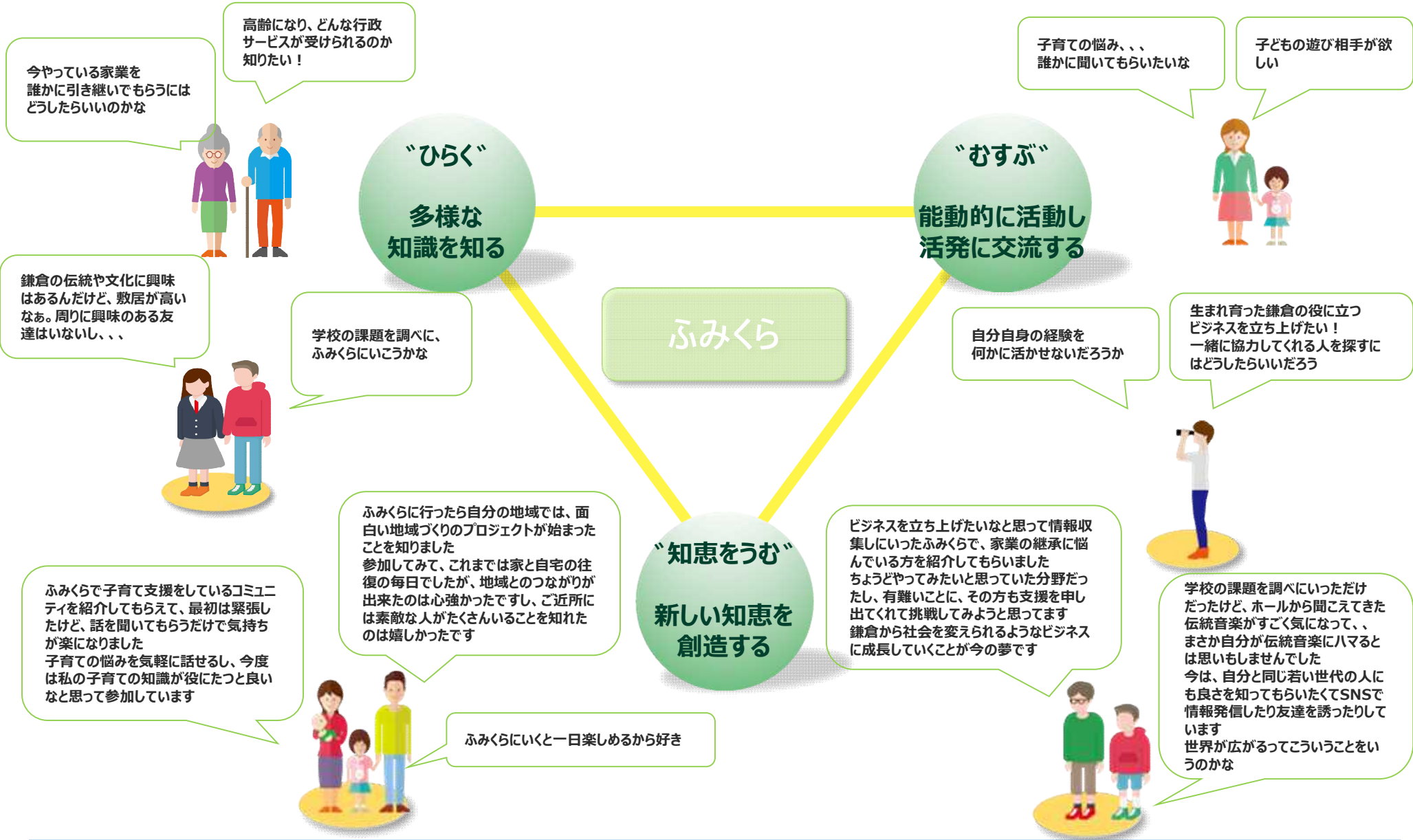
ふみくらでは、地域を魅力的にする新しいアイデア、困っているあの人を助ける新しいプロジェクト、最先端の技術を活かした新しいビジネス、生きがいを与える新しいコミュニティなどを創造していきます。

そのためには、ひらくこと（知識）とむすぶこと（活動と交流）が必要と考え、「ふみくら」を知恵をうむ拠点にしていきます。

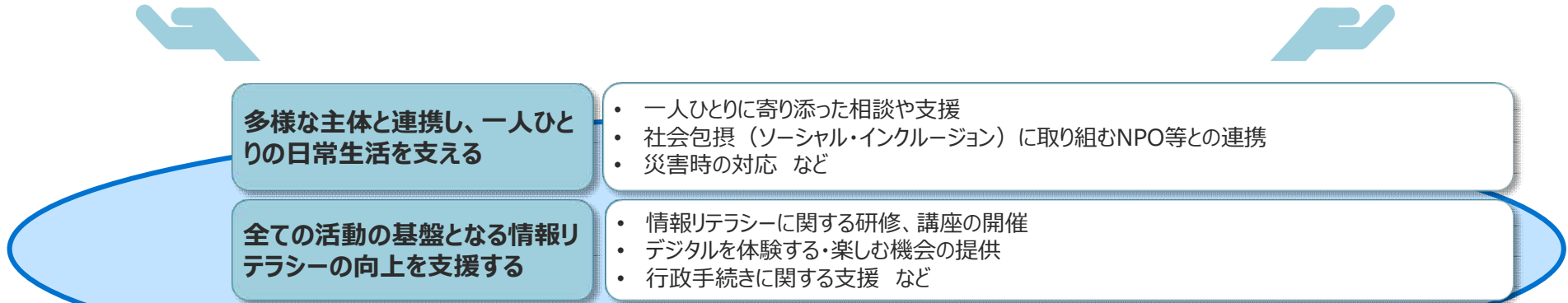
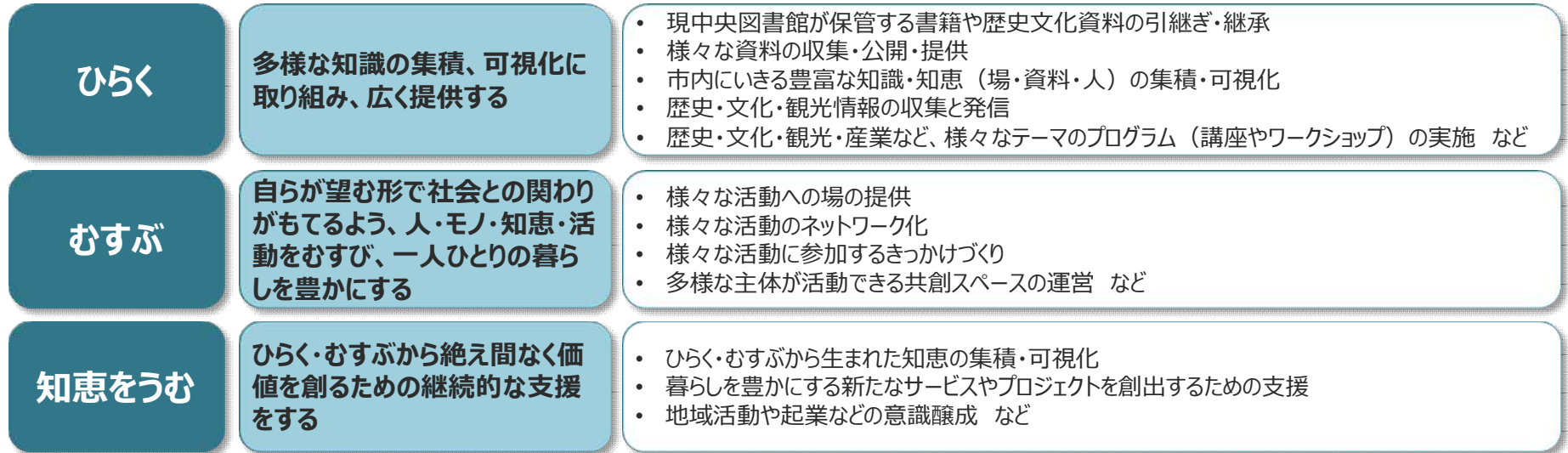
- ① **（利用者が） ひらく：多様な知識を知る**
- ② **（利用者が） むすぶ：能動的に活動し活発に交流する**
- ③ **（利用者が） 知恵をうむ：新しい知恵を創造する**



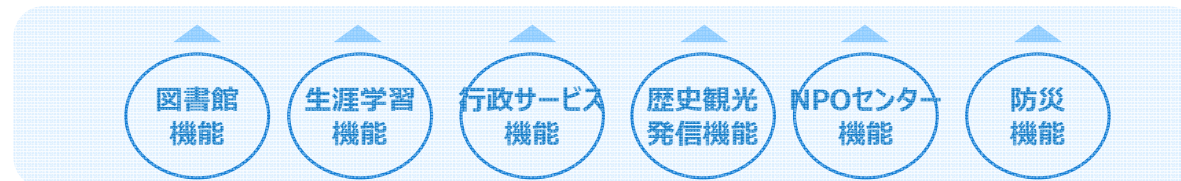
ふみくらでできること



ふみくらが提供するサービス

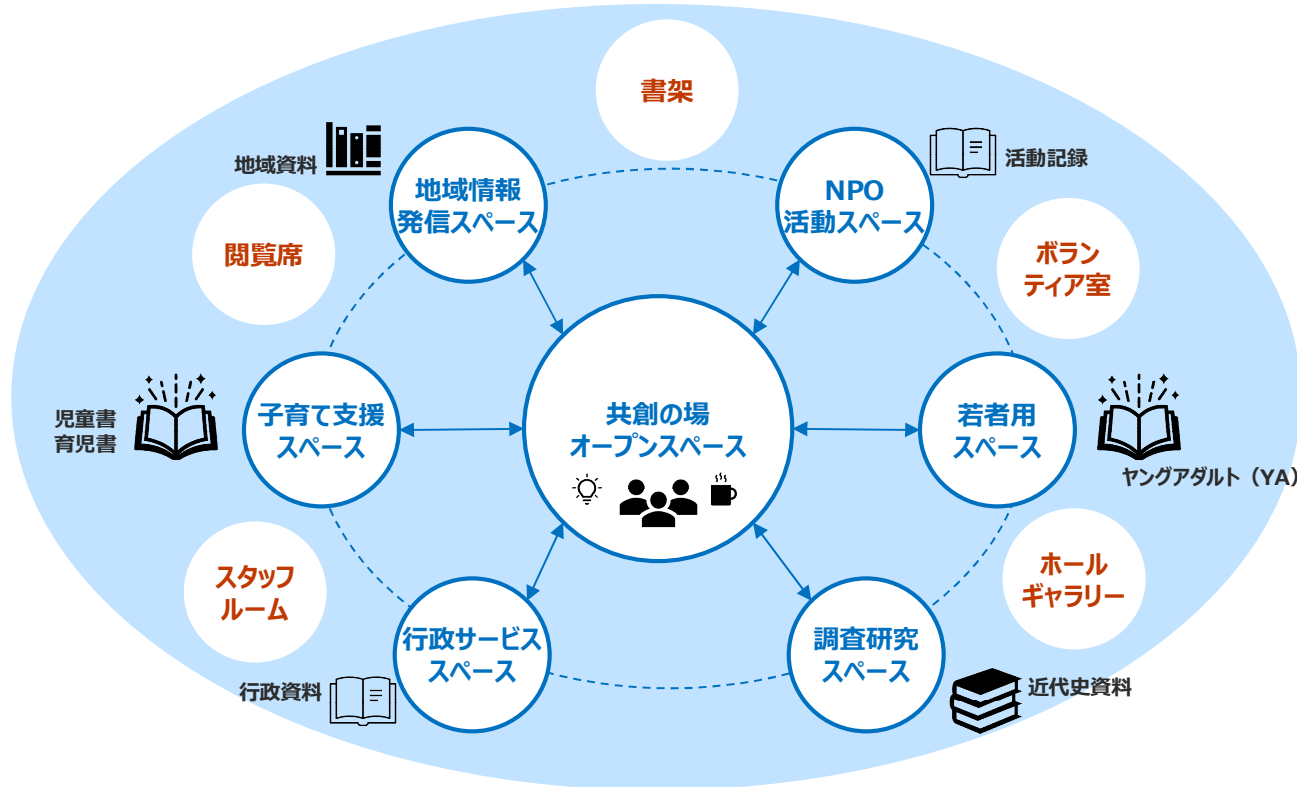


全ての基盤として

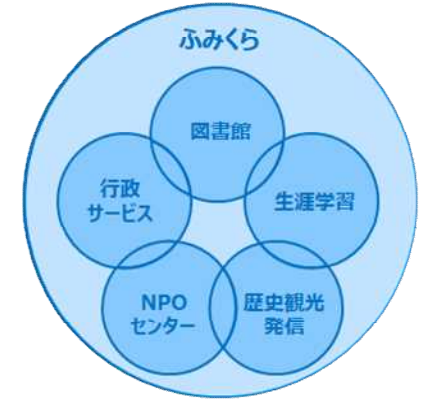


ふみくらを構成するスペースのイメージ

- 多様な主体が協力しながら常に何か（活動の成果・展示など）を共に創っている場を中心に置き、その周りに小さな活動の場をちりばめる。活動の場にはそれに関連する資料・情報をセットで配置する。
- 書架や閲覧席、ボランティアスペース、ホール・ギャラリーなども一体的なスペースを構成する。場を分割するのではなく、全体として一つの“ふみくら”をかたちづくる。



従来の複合化イメージ



ふみくらの複合化イメージ



ふみくらの空間イメージ（人と活動と情報が紐付き混ざる）

導入機能（公共機能）

導入機能

- 下表のとおり、中央図書館機能、生涯学習機能（ホール・ギャラリー・集会室）、行政サービス機能、歴史・文化・観光情報発信機能、NPOセンター機能、防災機能を導入することとする。

機能		基本構想における記載	基本計画における記載案	主なスペース
中央図書館機能		導入する	導入する	書架スペース、閲覧席、近代史資料室
生涯学習機能	ホール、ギャラリー	導入する	導入する	ホール、ホワイエ、楽屋、ギャラリー
	集会室	検討する	導入する	集会室、音楽室、和室、美術創作室
行政サービス機能		導入する	導入する	手続き・相談用ブース
歴史・文化・観光情報発信機能		検討する	導入する	展示スペース
NPOセンター機能		検討する	導入する	会議室
防災機能		導入する	導入する	備蓄倉庫、防災活動拠点、災害対応スペース

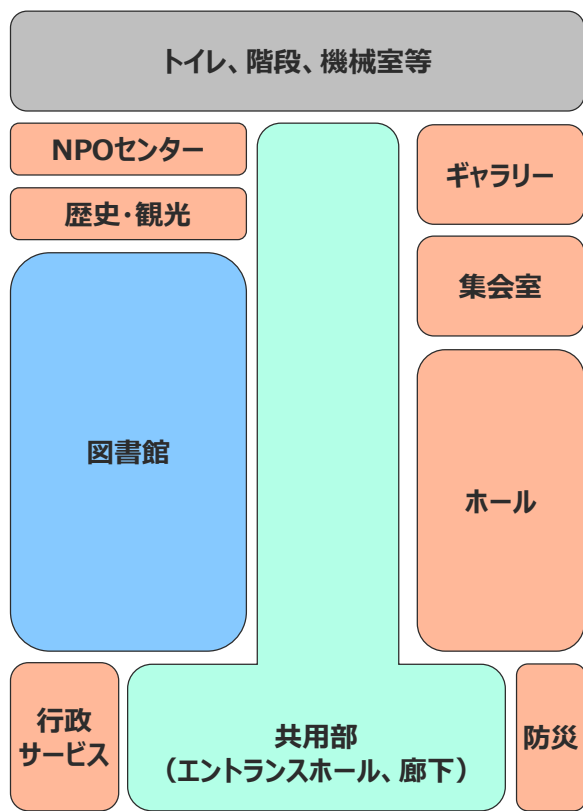
これらの機能を複合化し、空間・運営・体制のいずれにおいても一体化・融合することにより、“ふみくら”の基本理念を具現化していきます。

施設の複合化イメージ

- 共用部で区切るのではなく、融合させる。最もフレキシブルに計画可能な図書館機能を核（媒介）として、全体を一体的に計画する。

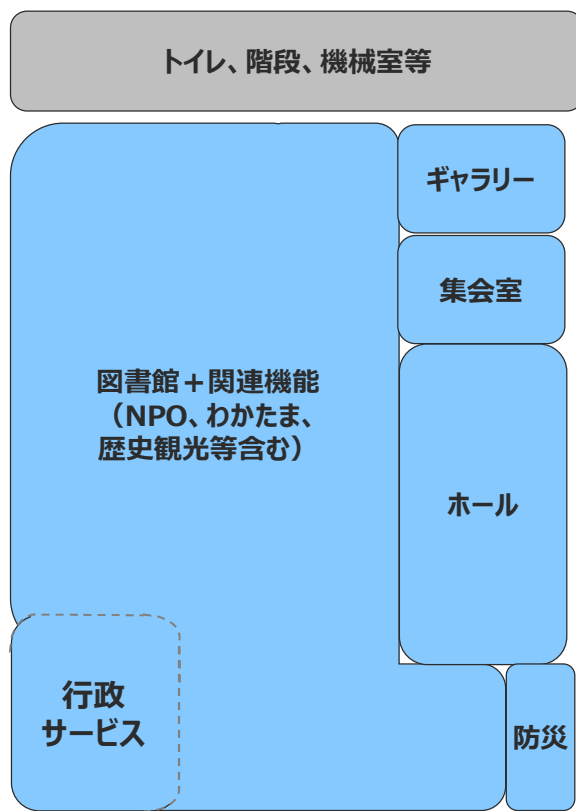
従来の複合化イメージ

- 各機能は基本的には独立しており、共用部の統合により効率化が図られる



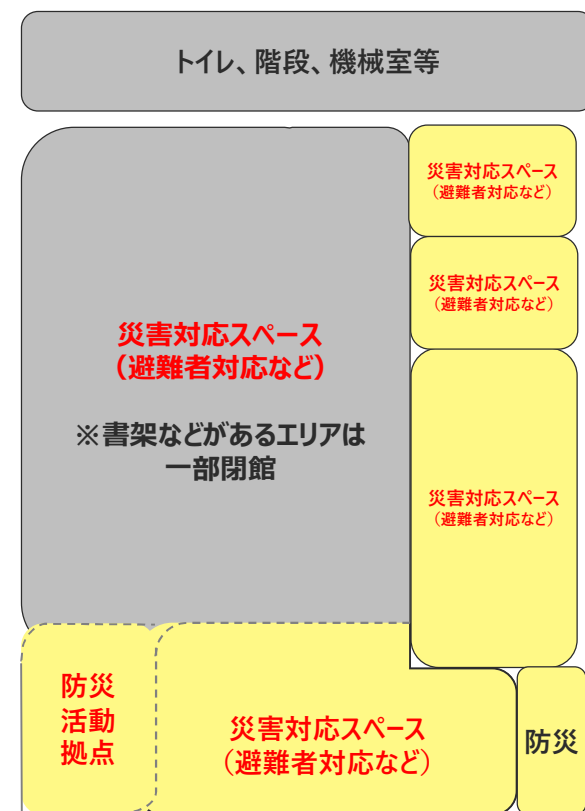
ふみくらの複合化イメージ

- 図書館を核として全体を一体的に計画する。



災害時のふみくら

- フェーズフリーの考えのもと、スペースを活用して防災活動拠点や避難者対応を行う。



施設規模

施設規模の設定に関する基本方針

- 既存施設の面積を目安にしつつ、以下2つを実現することが重要。
- 既存施設から継承すべき大切なものは残していく。

① 共創の実現

- ふみくらを実現するために不可欠な共創スペース、市民活動スペース、ボランティア室、地域情報発信スペースなどを可能な限り確保する

② 既存施設の課題解決

- 図書館の機能の強化を図るため、書架スペース、閲覧スペースを可能な限り確保する
- 行政手続き・相談の質を下げないために、十分な行政手続き・相談スペースを確保する
- 防災備蓄倉庫を確保するとともに、災害時に対応できるようフェーズフリーの考え方のもと、防災活動拠点の機能を発揮する
- その他、きらら鎌倉及びNPOセンターの事務室、歴史的公文書の書庫などの機能を確保する

現在地における行政サービス（手続き・相談）提供方法のイメージ

- 手続スペース、窓口スペース、個室ブースのいずれかで手続き・相談ができる環境を整えます。

生活のご相談ですね？
【A】窓口スペースをご案内します

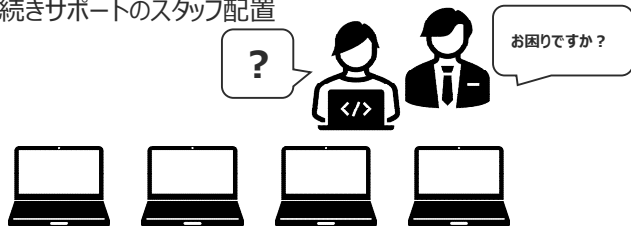
コンシェルジュ

〇〇〇の相談でしたら
【B】個室ブースで新庁舎の窓口にお繋ぎいたします

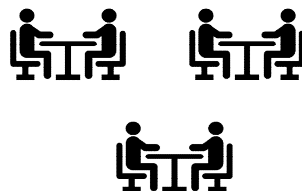
〇〇〇の手続は
【C】手続スペースの端末でできます
操作方法などはスタッフがサポートいたします

【C】【手続スペース】
(10席×7.2㎡=72㎡)
オンライン

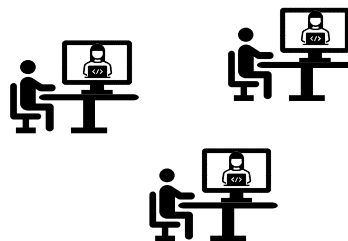
手続サポートのスタッフ配置



【A】【窓口スペース】
(5席×12㎡=60㎡)
対面相談
(くらしと福祉の相談窓口のような
総合相談窓口)



【B】【個室ブース】
(5席×18㎡=90㎡)
オンラインで新庁舎の窓口と接続



※上記のほか、
【職員(スタッフ)執務スペース】
(15名×7㎡=105㎡)

分野	手続き・相談例
住民登録	• 証明書発行、転出届など
税	• 市税関係諸証明等の交付、納付に関する相談など
子育て	• 児童手当、子育て相談など
福祉	• 障害福祉、生活保護に関する相談など
環境	• 生ごみ処理機購入費助成、転入時のごみの分け方・出し方案内など
地域	• 地域活動支援、自治会・町内会の相談など
総合相談	• くらしと福祉の相談窓口のような生活に関わる相談など

法的もしくは物理的に、新庁舎の各種窓口への訪問が必要な手続などを除き、オンラインの活用により、現在地でも引き続き対応できる施設整備（ハード）と運営（ソフト）を目指していきます。
開始時期には、一層のオンライン化も想定できることから、上記以外の手続・相談についても、現在地で対応できる手続や相談を増やせるよう、検討を進めていきます。

※総合相談や現在地では対応が難しい手続・相談に対応できるようにするためにAパターン及びBパターンもそれぞれ5席配置するとともに、鎌倉地域で想定される手続処理件数41,350件に必要な手続スペースとしてCパターンを10席配置します。
上記に加え、スタッフ15名配置とした場合の執務スペースを加えた、約330㎡を行政サービスに必要な施設規模として算出しています。
1席あたりの㎡数は、「鎌倉市本庁舎等整備に関する執務環境等整備支援業務委託 調査結果報告書」を使用しています。

現在地における行政サービス（手続き・相談）／基本方針

対象	種別	現状の本庁でできる 手続き・相談	現状の支所でできる 手続き・相談	利活用後の 手続方法【A】(窓口 スペース)	利活用後の 手続方法【B】(個室 ブース)	利活用後の 手続方法【C】(手続き スペース)	備考
市民向け	〇〇手続	●	●			● ※1 ※2	
	▲▲相談	●		●	●	●	
地域向け (地域支援機能)	自治会・町内会、地域の会 合や赤い羽根募金など	●	●	●	●	●	A～Cのいずれか かで対応

※1 ただし、臨時運行（仮ナンバー）やマイナンバーカードの券面や電子証明の住所を書き換える手続き、現時点ではオンライン対応不可の手続きなどがあり、一部の手続きは新庁舎での対応とならざるをえない可能性があります。

・ オンラインに対応できない方にも【C】手続きスペースにサポートスタッフを配置し、対応できるようにします。

※2 開始時期に、どの程度の手続のオンライン化が進んでいるか予測は難しいものの、オンライン化が加速している状況も想定できることから、対応できる手続き・相談について、増やしていけるよう、検討を進めていきます。

・ このため、利活用後の現在地に残す行政スペースは、一定面積を確保する必要があります。

・ 赤い羽根募金など、支所で行っている業務を、現在地で担うことを想定しています。

現在の市役所 1 階で対応している主な手続や相談機能については、オンラインも活用しながら【A】～【C】のいずれかの方法で対応し、利活用後の現在地で「できない手続きはない」状態を目指します。

施設規模案

- 前頁の方針を踏まえた面積イメージは以下の通り。既存施設（中央図書館・きらら鎌倉・NPOセンター）＋行政センターの機能に共用部を40%として算出すると約8,200㎡となり、これをベースに、図書館機能や行政サービス機能を充実し、約8,390㎡を行政機能の施設規模として算出した。
- 共用部割合40%は仮のため、今後モデルプランを作成しながら精査が必要。書架・閲覧スペースや各種活動スペースの内訳も今後精査が必要である。

【既存施設面積】

機能	スペース	面積 (㎡)
図書館	既存と同様の専有部	2,030
ホール	ホール・楽屋	660
	ホワイエ	300
ギャラリー	展示室・控室	420
	ロビー	110
集会室	—	660
生涯学習	ボランティア室	30
	わかたま	20
生涯学習バックヤード	事務室・倉庫	150
行政センター	事務室等	250
	ロビー	100
NPOセンター	事務室	40
	会議室	40
防災	備蓄倉庫	100
共用部	40%と想定	3,290
合計		8,200



【ふみくら】

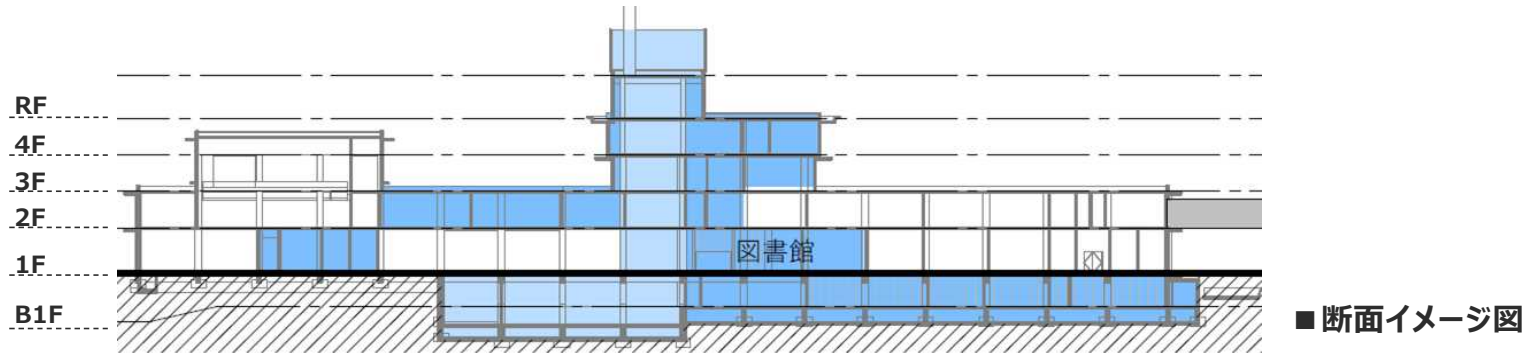
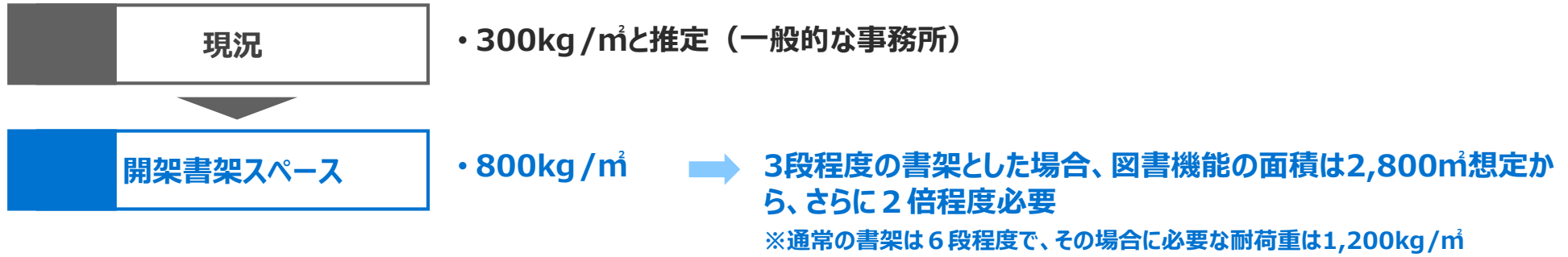
スペース	面積 (㎡)	備考
図書館スペース	2,800	書架・閲覧スペース・図書館事務室・書庫
ユース活動スペース	20	わかたま相当
NPO活動スペース等	70	NPOセンター相当、市民活動スペース、ボランティアスペース
情報発信スペース	60	新規（オープンスペース）
共創スペース	300	新規（オープンスペース）、デジタルアーカイブスペース
ホール・楽屋	660	多目的利用
ホールホワイエ	210	70%相当
ギャラリー展示室・控室	420	既存きらら鎌倉相当
集会室	660	
行政サービス（手続き・相談スペース）	330	手続き窓口、相談窓口、事務室、防災活動拠点
事務室、会議室	190	きらら鎌倉事務室、NPOセンター事務室相当
防災備蓄倉庫等	100	腰越備蓄倉庫と同等
書庫（歴史的公文書）	100	電子化も検討
共用部	2,470	階段・EV・トイレ、機械室（※）
合計	8,390	

※左表共用部3,290㎡のうち、約75%は階段やトイレなどの固定スペースとして使用するものの、廊下などの動線部分の一部は空間として活用できるため、残りの25%は、書架、閲覧スペース、情報発信スペース、共創スペース、デジタルアーカイブスペースなどに振り分ける。

整備手法

課題① 床耐荷重

- 既存施設は事務用途であり、図書館と比べて床耐荷重が小さい。3段程度の書架を設置する場合でも、床の耐荷重を $800\text{kg}/\text{m}^2$ に増やす必要があると考えられる。
- 書架を設置する場合には、耐荷重を増やす方法は小梁（こばり）を増す、柱を補強するなどが考えられるが、その場合建物全体の重量が増すため、それを支える地中の杭を補強する必要があると考えられる。



書架スペースを2倍程度に設定して簡易にゾーニングをすると、図書機能が5層（B1F～4F）となり、公共機能の延床面積が約 $11,190\text{m}^2$ 程度まで膨れ上がります。

課題② 耐震性

- 既存施設の耐震性能はIs値0.6。
- ふみくらは建物全体を災害時の拠点として活用する施設を予定している。
- 防災性能を高め、新庁舎と同等（Is値0.9）とする場合は、新規に53構面の耐震補強ブレースが必要である。

※ふみくら自体は市役所や消防本部機能が入るわけではないため、耐震改修促進計画上で求められるIs値は0.75。その場合に必要な耐震補強ブレース（Is値0.9）で示した緑のブレースの半分程度が必要。

- 耐震補強を行った場合、耐震補強ブレースが増えることから、使用できる空間が少なくなる。



既存の耐震ブレース

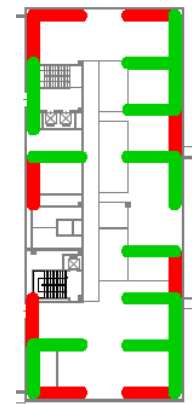
新規の耐震ブレース

1F

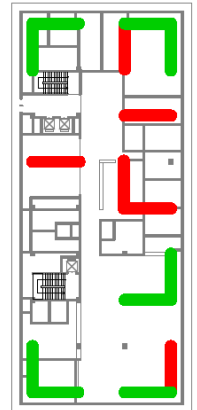


2F

※図のほかに、地下に2構面のブレースが必要



3F



4F

耐震補強すると、使用できる空間が少なくなることから、建物の使い勝手が低下すると想定されます。

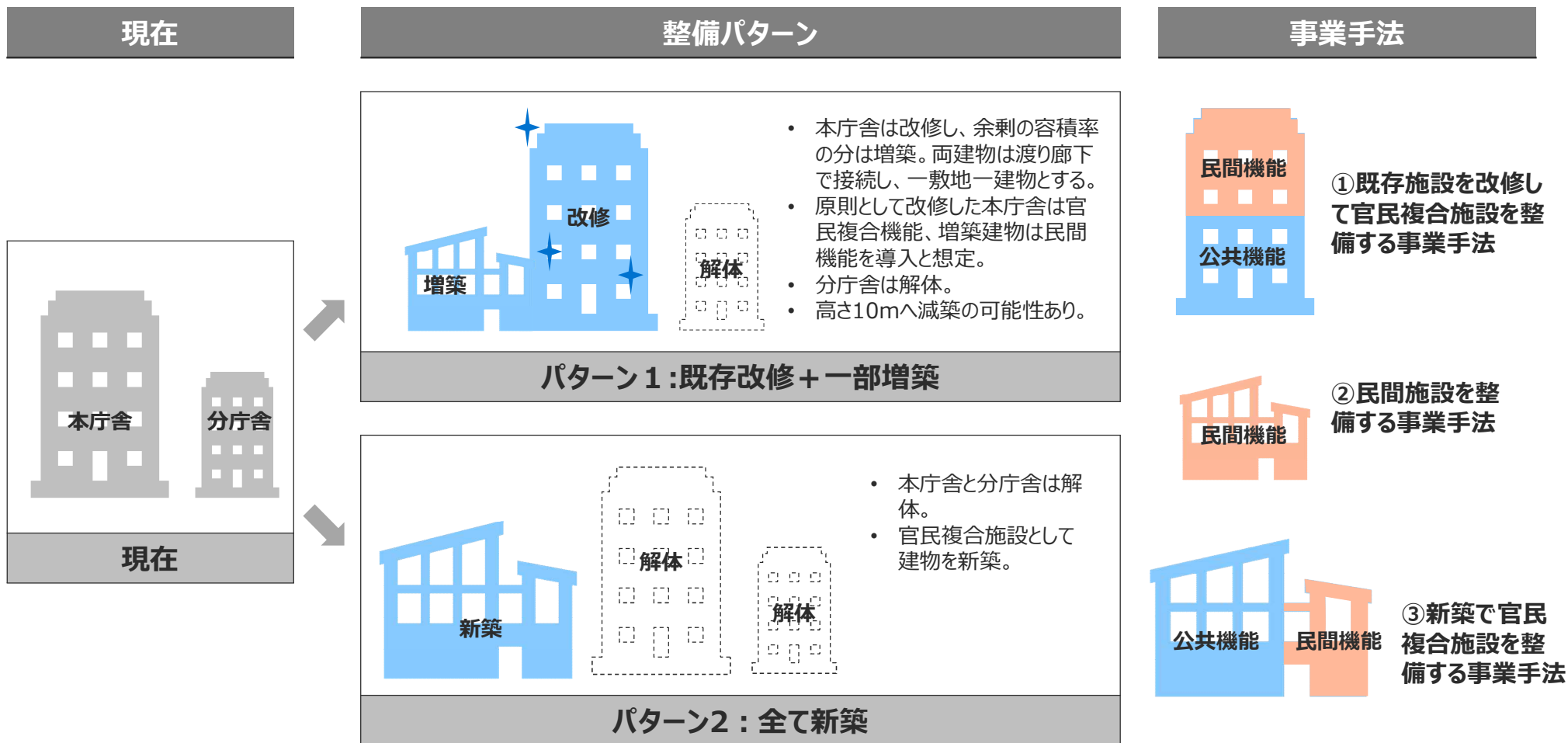
課題③ その他

- 課題①及び②の他にも、以下の課題の整理が必要と考えられる。
埋蔵文化財、風致地区条例の取扱い、など

既存施設を活用するのか新築とするのか、課題を整理し検討を進めていきます。

想定される整備パターン

- 整備パターンは以下の2つ。いずれも一敷地一建物と想定。整備ケースを踏まえた、検討すべき事業手法は①～③のとおり。
- 既存施設の活用の実現可能性が低い場合は③が検討対象となる。



市民対話・ONE DAY PLAYPARKの結果報告

市民対話（ワークショップ）

実施概要

【日時】2023年5月27日（土）

午前の部 10:00～12:30

午後の部 13:30～16:00（各回150分）

【場所】鎌倉市役所 旧おなり子どもの家

【参加人数】

午前の部25名（うち見学6名）

午後の部30名（うち見学9名） 延べ55名

ワークショップ概況

中央図書館で不要となった本を使い、「わたしの“ふみくら”」制作を行いました。表紙の裏に「鎌倉と自分のこれまで」、裏表紙の裏に「鎌倉のこれから」について自分の想いを書き、本づくりを通じて、鎌倉や市庁舎現在地について考えました。

ワークショップには、親子や、地元で活動をする若者、クリエイターの人等、さまざまな年代の方が参加。ひとりひとりの鎌倉への想いに向き合った後、「これからの鎌倉」を書いていくことで、単に「こんな機能や場所がほしい」という意見ではなく、今後鎌倉がどんなまちになってほしいかという視点から、必要な機能や場所について考えを深めていくことができました。

ワークショップの様子



制作したわたしの“ふみくら”



ONE DAY PLAYPARK

実施概要

【日時】2023年5月27日（土）

10:00～16:00

【場所】鎌倉市役所敷地内

【参加人数】約2,500名

実施報告

市庁舎現在地利活用基本計画策定へ向けた取組として、市民が将来の現在地利活用におけるDX導入などを想定した未来の行政施設、行政サービスを体感することで、現在地利活用について理解、共感をいただくイベントを開催しました。

当日は子ども連れでの家族の来場が多く見られました。

また、各エリアでは未来の現在地の導入機能等について、付箋での意見聴取や紙アンケート等も行いました。

当日の様子



(参考) 他市事例

自治体直営の図書館に関する先進事例

- 本事業では図書館は市直営を想定していることから、近年オープンした自治体直営図書館を含む複合施設を視察した。

施設名	須賀川市民交流センター tette
オープン日	2019年（平成31年）1月11日
住所	福島県須賀川市中町4-1
URL	https://s-tette.jp/index.html
運営	須賀川市市民協働推進部
床面積	13,698.58㎡

施設名	みんなの森 ぎふメディアコスモス
オープン日	2015年（平成27年）7月18日
住所	岐阜県岐阜市司町40番地5
URL	https://g-mediacosmos.jp/
運営	岐阜市
床面積	15,444.23㎡

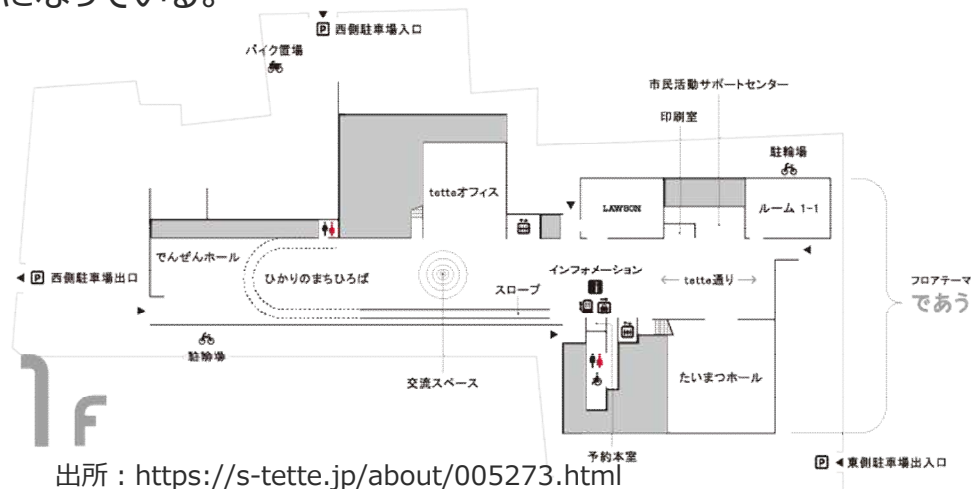
施設名	石川県立図書館
オープン日	2022年（令和4年）7月16日
住所	石川県金沢市小立野2丁目43番1号
URL	https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/
運営	石川県
床面積	22,721㎡

須賀川市民交流センター tette～交流スペース・ひかりのまちひろば・tetteオフィス（1階）

- 1階西側には、交流スペースやひかりのまちひろば等の滞在を促すスペースが設けられており、周辺にホール、出店スペース、tetteオフィス等が配置されている。
- ホール、交流スペース等は一体的な利用ができる設えになっている。



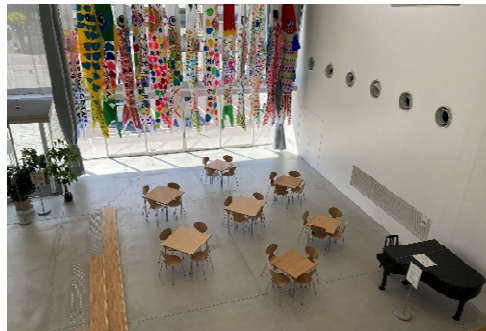
交流スペース：
交流スペースは、tetteオフィスの待合スペースとの兼用となっている。周辺には、中心市街地出店を目指す人が低価格(月1~2万円)で借りられる貸店舗（カフェ、小区画の売店）が設置されている。



情報パネル・自動貸出機等：書籍の貸し出しランキングや図書館情報、観光・交通情報を見ることができる情報パネルと資料検索・自動貸出機が設置されている。



ひかりのまちひろば：須賀川市出身の映画監督円谷英二の作品にちなんだ広場。怪獣の展示や子どもが靴をぬいで遊べるスペースが設置されている。



だんぜんホール：講演会やピアノ等の演奏会、本のリサイクルイベントが行われている。共用部と一体的に利用することも、カーテンで空間を区切ることも可能。

イベント時



ホールでのイベント時には、ひかりのまちひろばやスロープ、2階のわくわくひろばが観覧場所になる。

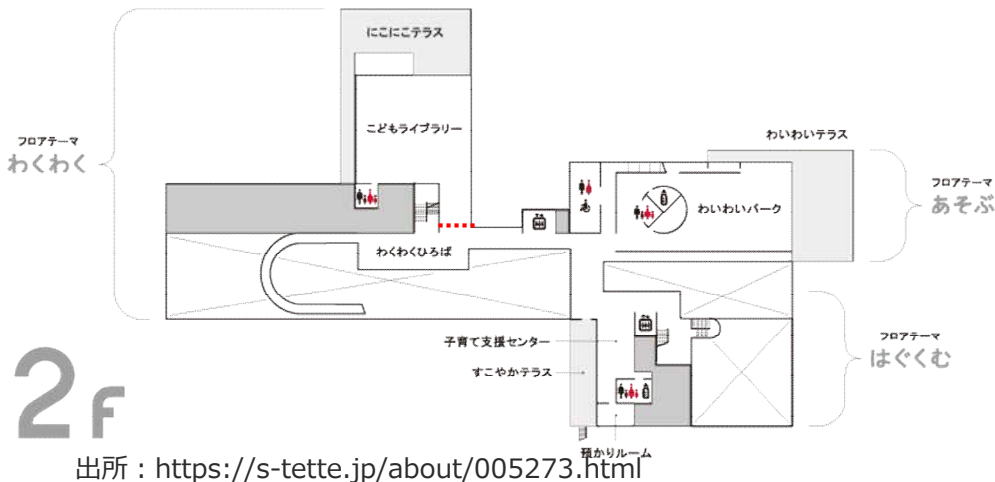
出所：
<https://www.realpublicestate.jp/post/library-tette/>

須賀川市民交流センター tette～こどもライブラリー・にこここテラス（2階）

- 児童書を扱うこどもライブラリーは、読み聞かせイベント用のスペースが設けられていることに加え、水道等の設備があるテラスが併設されており、様々な利用に対応できるようになっている。



こどもライブラリー：児童書を配架している。書架は3段以下の低いものが配置されている。



書架の間には、子どもが一人で座れるようなスペースや、司書おすすめの児童書の展示等が配置されている。その他にも、子供用の閲覧席や読み聞かせイベント用のスペースもあり、周辺に絵本や紙芝居の書架が配置されている。



にこここテラス：こどもライブラリーに隣接した屋外テラス。サンルームや水道なども設置されている。

イベント時



こどもライブラリーでは、子育て支援センターと連携して絵本や紙芝居の読み聞かせイベント等も行われている。

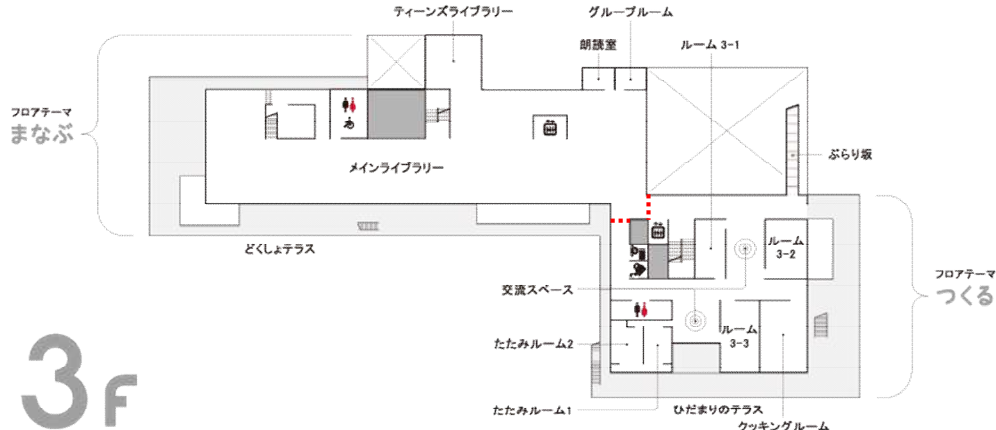
出所：
<https://s-tette.jp/action/information/entry/005393.html>

須賀川市民交流センター tette～交流フロア（つくる）（3階）

- 各種用途の集会室が配置されている。
- 共用部には、書架と待合スペース・閲覧席兼用のテーブル等が配置されている。
- 各集会室周辺の書架には、集会室の用途に関連した書籍の配架や展示が行われている。



交流スペース：集会室の待合いと閲覧席の兼用となっているテーブル席が配置されている。



出所：<https://s-tette.jp/about/005273.html>



各集会室の用途（工作、料理等）に合わせて、周辺に関連書籍の配架、展示等がされている。

みんなの森ぎふメディアコスモス～エントランスホールーシビックプライドプレイス、まちライブラリー

- エントランスホールの一部を使い、「岐阜の魅力を集めた情報の窓」をテーマとした企画展示が行われている。まち歩きステーション／ぎふ歴史ギャラリー／岐阜な人／セレクトブックシェルフ／シビックプライドボードが設置されている。
- 図書館で実施されている取組（おとなの夜学、シビックプライドライブラリー）と連動した取組になっている。



まち歩きステーション（手前）：周辺の店舗や史跡等を紹介。気になる場所をピックアップして自分だけのまち歩き地図が作成可能。



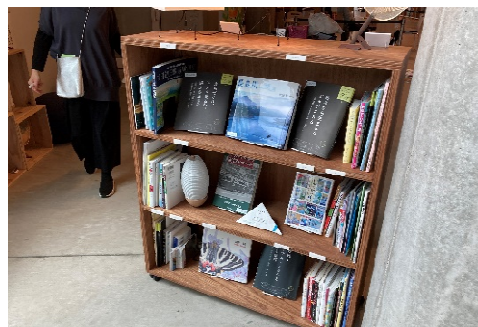
まちライブラリー：市民がオーナーの本の本棚。自由に借りることができる。お店やお寺、店舗にも設置されている。オーナーは市民で、利用者は感想メモを残すというルールで運用されている。



ぎふ歴史ギャラリー：タッチパネルで古地図に紐づけられた写真を見ることができる。



岐阜な人：市内の作家、川漁師、デザイナー、商店主、企業人等をカードで紹介。



セレクトブックシェルフ：岐阜に関連した書籍等が配架されている。



シビックプライドボード：「路面電車」「喫茶文化」「山水郷」など9つのキーワードが表示されており、タッチすることでそれぞれのキーワードに関連した写真が浮かび上がってくる。

みんなの森ぎふメディアコスモス～図書館－児童書・YAコーナー（2階）

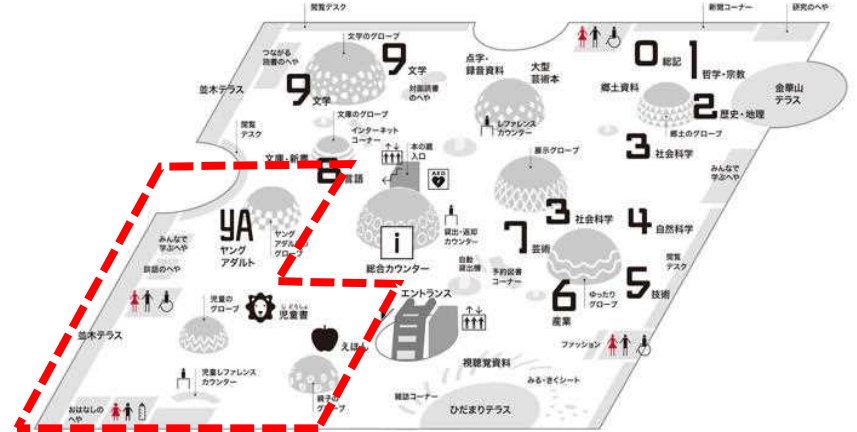
- 図書館全体として、「子どもの声は未来の声」を掲げ、話し声等を許容する空間となっている。
- 親子用グローブやYA専用席など、それぞれのニーズに応じたスペースが設けられている。
- 掲示板等、子どもや10代の若者が図書館司書と交流する仕掛けも施されている。



親子のグローブ：靴をぬいで本を楽しむことができる、0歳から2歳までの親子のためのエリア。読み聞かせイベント等も実施されている。



出所：https://cool-gifucity.jp/live/live08/special01_01/



出所：https://g-mediacosmos.jp/cosmos/floor_map.html



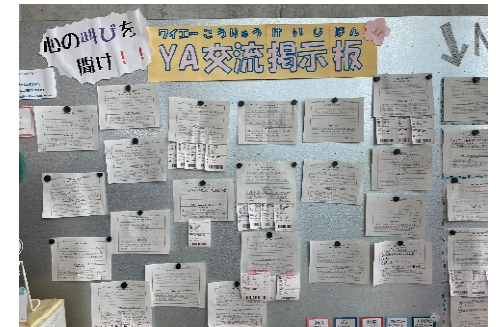
にゃんこカート：絵本などを入れて図書館内や小学校などの館外を回り、移動先ではおはなし会を開催するための「おはなしカート」。わんこカート『きらら』のおともだちで「にゃん吉」。



図書館宛て郵便箱・商店街との連携展示：子どもから図書館の司書宛てに手紙を出せるポストや書架の間のスペースを使った展示（柳ヶ瀬商店街との連携）が見られた。



YA専用席：ヤングアダルト（中高生世代）のための専用席。利用中の席が一目でわかるように、図にマグネットを貼り、利用中の席に目印となる旗を立てるシステム。

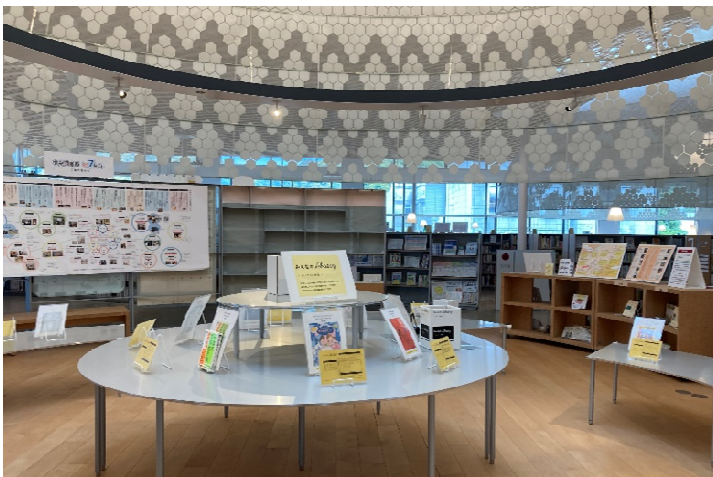


YA交流掲示板：YA世代の日頃の鬱憤、嘆き、つぶやきなどに対し、司書が返信している掲示板。返信に併せて司書おすすめの本も紹介されている。

出所：

みんなの森ぎふメディアコスモス～図書館～その他展示等（2階）

- 図書館の司書や利用者による情報発信のスペースやグループ学習等の設備も設置されている。
- 書架空間の一部を使い、地域について学ぶイベント等も開催されている。



①**展示グループ**：
イベント・時事などのテーマに合わせた本の紹介や展示を行っている。中心には市民ののおすすめ本紹介コーナー「みんなのライブラリー」が常設されている。



出所：https://g-mediacosmos.jp/cosmos/floor_map.html

イベント時



②**シビックプライドライブラリー**：「岐阜で楽しく豊かに暮らしていくためのヒントとなる本」を横断的に集めた特集本棚。シビックプライドにフォーカスした空間が整備されている。



岐阜の地域文化に通じた様々な分野の専門家、“その道の第一人者”を招き、対談等を行うイベントである「おとなの夜学」のほか、人権イベントなども開催されている。

出所：<https://g-mediacosmos.jp/lib/information/blog/>



③**みんなで学ぶへや**：6人程度までのグループ学習などに利用できる部屋。3部屋あり、内1部屋はYAエリアに設置されており、YA（中高生）優先席になっている。

石川県立図書館～1階—展示・書架・こどもエリア

- 段状になっている展示・書架スペースに加えて、様々な閲覧・イベントスペースを備えたこどもエリアが配置されている。
- 施設全体として加賀五彩という加賀友禅にみられる伝統色がアクセントカラーに用いられている。



①**展示・書架**：手前で貴重な地域資料や書籍の展示が行われており、改題を登っていくと奥に書架と閲覧席が並んでいる。書籍はテーマ配架となっている。

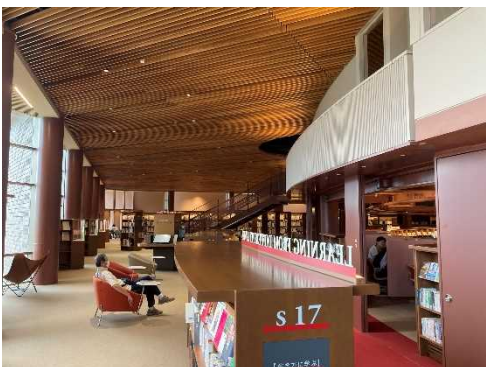
出所：<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/facilityintroduction/1035.html>



②**こどもエリア**：児童用の書籍が配架されており、様々な利用に対応できるように多様な形状の閲覧席が設けられている。屋外には、読み聞かせイベント等を開催できる庭「おはなしの森」が整備されている。

石川県立図書館～ 3階

- 全体が図書館エリアになっており、書架とともに様々な形態の閲覧席が設けられている。
- レファレンスデスクやデータベースコーナー等のサービスも配置されている。



書架スペース：書架の間に様々な形状の閲覧席が設けられている。



出所： <https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/facilityintroduction/1035.html>



建物の形状を利用した席やブリッジ上の席等様々な席が設けられている。



データベースコーナー



レファレンスデスク

<p>須賀川 市民交流センター tette</p>	<p>機能の融合について</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なスペースの兼用化や一体利用、図書館以外の機能への書架設置、機能連携により、機能の融合・相互利用が図られていた。部署等の組織再編・移転を行うことにより、さらなる機能間の連携等が図られようとしている。 <p>図書館運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示の増加や施設内各所への書架の分散配置、施設内での本の持ち運びを自由としたことに起因して、図書館運営の業務量が増えていることが推察されるが、それと同時に、自動貸出機や予約本室等の設置等により業務の効率化が図られている。 書籍のテーマ配架の導入には、事前の検証等による職員理解の促進が重要であると感じられた。
<p>みんなの森 ぎふメディアコスモス</p>	<p>施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会室の中で行われている活動が、施設共用部や外部から見えるようになってきている。さらに、大規模イベント時には共用部や広場一体利用できる仕様になっている。 図書館は、建築的な工夫（グローブによる空間の分離等）や様々な設備により、多様な利用者にニーズ応えている。また、展示や掲示板といった、図書館の司書と利用者、利用者同士、地域と利用者の交流を生む仕掛けが多く施されている。 <p>運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館の事業から派生した新規事業を他部署が展開し、その事業を図書館が逆輸入する等、運営・企画面において施設内での部署・機能の連携による効果が見られる。 初期における理念構築や方針・事業検討が、現在の施設運営に大きく影響しており、その重要性が伺える。 イベント運営等においては、活動団体との協働で行うことにより、イベントの継続・展開を目指している。（ex.おとなの夜学、マルシェ）シビックプライドライブラリー、シビックプライドプレイスといった地域・市民が情報発信していくイベントや企画展示が行われており、地域性が表われていた。
<p>石川県立 図書館</p>	<p>施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> 吹き抜けトラスや円形劇場状の書架配置によって、シンボリックな空間となっている。 石川県の伝統工芸品の展示に加え、建物の内装のアクセントカラーに伝統色を用いることにより、地域性が表現されている。 建物形状の特徴を利用して、様々な形状の閲覧席が数多く配置されている。 研修室が自習室として開放されるなど、図書館機能と文化交流機能の複合化による施設の有効利用等の効果が見られる。 シンボリックな空間、それぞれのニーズに合わせた利用を可能にする空間が人々を惹きつけていると感じた。